



## 金見水曜クラブ（徳之島町）

発表者：元 田 豊 氏

皆さん、キューウガメラ（こんにちは）。金見水曜クラブ代表の元田と申します。

本日は、このような思いがけない表彰をいただき本当にありがとうございます。また、私たちの活動事例について発表の機会をいただき大変光栄に思っております。

### 1 はじめに

私たちの住む徳之島は、鹿児島市から南西へおよそ490キロのところにあります。周囲およそ90キロの島で、徳之島町、天城町、伊仙町の3つの町があり、さとうきびや畜産、早出しバレイショ、マンゴーなど農業が盛んな島です。また、特別天然記念物の「アマミノクロウサギ」をはじめ、希少野生動植物がたくさん生息しており、2018年に「奄美・琉球世界自然遺産登録」を目指して島全体で取り組んでいます。



私たち「金見水曜クラブ」は、島の中心地亀津から北へおよそ25キロの金見集落で活動をしています。

金見集落は、世帯数44戸、人口87人の小さな集落です。最高齢者は97歳、一番下は小学校4年生で、高齢化率が58%と人口の半数以上が65歳以上の高齢者であります。集落全体が一つの家族のような雰囲気です。みんなが楽しく生き生きと暮らしています。集落には、樹齢およそ350年ともいわれているソテツトンネルや金見崎展望台、真っ白な砂浜、コバルトブルーの海があり、シーズンには連日多数のお客さんでにぎわいます。また、梅雨明けの頃には天然記念物のオカヤドカリやウミガメの産卵が見られ、子供たちの自然観察会なども行われています。最近では、エコツアーガイドによる「まち歩き」も行われ、新たな観光資源としても脚光を浴びています。このような風光明媚な地域で私たち金見水曜クラブは楽しく活動しています。

### 2 活動内容

それでは、はじめに金見水曜クラブの経緯をご紹介します。

平成14年に神戸から帰省した夫婦の家に親せきのおばあちゃんたち5、6人が集まり、お茶を飲みながら「チャーヌミバナシ」（お茶のみ話）をしていたのがはじまりです。



毎日、三々五々集まってきて、世間話や昔の思い出話などを語り合っただけで笑いがたりしてました。おばあちゃんたちにとっては、毎日の日課となり、又、唯一の楽しみでもあったようです。夫婦が神戸へ戻った後も留守宅の縁側に集まっていたのですが、メンバーのうち、デイケアに通っている仲間が水曜日だけ休みであったので、毎週水曜日に集まるようになりました。その後、近くの民家の空き家を利用して、手作りのおやつなどを持ち寄って、お茶を飲みながらよもやま話をして楽しい時間を過ごすようになりました。そして名前も「水曜クラブ」と付けました。



和気あいあいとした自由な雰囲気が口コミで広がり、自然と仲間が増えるようになりました。平成25年度には、集落倉庫を改修して「コーネンヤマ会館」と命名し、活動拠点をここに移したところ男性の高齢者も参加するようになり、さらににぎやかになりました。

次に、金見水曜クラブの活動内容をご紹介します。

まず、郷土芸能の継承活動を行っています。

かつて盛んに唄われていた「まんきゃあしび」の復活継承で、これは「ニライカナイ（海の彼方の神様）を招き入れる」という意味の豊作祈願の唄と踊りです。男女が向かい合ってひざまづき、最初はゆっくりと唄い、それに併せて手踊りをするが次第にテンポが速くなり、絶頂に達した頃には床も壊しそうな激しい踊りになります。新築の家で厄払いも兼ねて「まんきゃあしび」が行われていたようで、激しい踊りにも耐えられる頑丈な家の証にもなっていたそうです。また、娯楽の少なかった島では、若い男女にとって「まんきゃあしび」が婚活の場にもなっていたようです。約2年間にわたり、子供たちも含めて練習をしてきた「まんきゃあしび」復活の様子は、大阪吹田市の万博公園内の国立民族学博物館で保存され、いつでもモニターで見るこ



とができます。

また、毎年1月3日の集落新年会終了後の伝統行事「カマムイ」は、年の祝い該当者宅を回って長寿を祈願する行事です。テーコ（太鼓）とサンシル（三味線）を先頭に、「きゅーうぬ ふくらしゃや いちゆりむまさてい いちんば きゅーぬぐとに あらちたぼれ」（今日のめでたさは いつよりも勝てい いつも今日の如きに あって欲しい）という「正月唄」を唄いながら練り歩き、年の祝い該当者宅で唄や踊りで長寿を願い、最後は「六調」で締めくくり次々と回ります。この「カマムイ」にも先頭に立って若い人たちに大切な伝統行事を引き継いでいます。都会帰りの出身者たちは、この雰囲気にとっても感激し、昔を思い出しながら島の正月に浸っています。



次に、かつて集落の大切な水がめであった「フーゴ」（泉）の保全活動も行っています。



「フーゴ」は飲料水としてはもちろん、洗濯や水浴び場として大変貴重な泉でしたが、長年放置され荒れ放題になっていました。平成26年に整備されて、かつての面影が蘇り、その後は水曜クラブの会員が中心になって清掃をしたり、周辺に季節の花を植えたりして保全活動を続けています。

その他集落内のボランティア清掃をはじめ、毎年8月に行われる海の日には海岸の漂着ごみの回収等にも参加しています。

### 3 結びに

以上金見水曜クラブの活動を紹介しましたが、これからも私たちが生まれ育ったこの金見集落を「黄金を見せるシマ」としてあり続けるようにシルバーパワーで地域に貢献したいと思っています。また、今後、地域支え合い推進員（あまんクラブ）とも連携して「見守り」、「見守られる」中で、子や孫に囲まれながら、生き生きとしたシルバー時代を元気で過ごしていきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。